

## 京都をイメージする鉢物・花壇苗品目の選定及び作型開発

農業総合研究所

### 要 旨

ナデシコ類では、花壇苗用と鉢物用に合わせて7種類を選定した。種子繁殖系のキキョウ、トルコギキョウ、栄養繁殖系のキブネギクでは、品種特性を把握し、品目に適した基本的な作型を開発した。

### 成果の概要

「京都花物語」推進運動の京都をイメージする鉢物・花壇苗の中から4品目について、それぞれに適した作型を提示し、生産振興に活用する。

ナデシコ類では、花壇苗として匍匐性の *Dianthus deltooides* の4品種 (cv. ホワイト、cv. レッド、cv. Leuchtfunk、cv. Roseus) 鉢物用には草姿がコンパクトな *Dianthus pavonius* など3種を選定した。

キキョウは、10月上旬の府内行事 (丹波光秀ききょう祭など) への出荷を想定し、9月下旬に開花させるためには、4月中下旬の播種が適していた。この作型では、茎葉のボリュームが不足するため10.5cm鉢に3株定植が適当である。

トルコギキョウの季咲き作型では、茎葉の締まった株に仕立てるため、発蕾期以降のかん水を控える。低温処理する晩秋作型では、10 7週間 (24時間明条件) でロゼット打破が可能である。さらに、開花を促すために栽培後半の加温 (夜温15 確保) が必要である。

キブネギクでは、根伏せを10月に行い、仮植時の施肥量を多くすると、充実した苗が得られ、花茎本数や花数が多くなり品質が向上する。

品 目	品 種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備 考
ナデシコ類	<i>Dianthus deltooides</i>	○—△												花壇苗 (種子繁殖)
	<i>Dianthus pavonius</i> など	△—○												鉢物 (栄養繁殖)
キキョウ	アストラ系5品種	○—○—△—○												
トルコギキョウ	ティラミス系5品種	○—○—△—○												季咲き作型 低温処理作型・加温
キブネギク (シュウメイギク)	野生種、赤・八重、桃・一重	○—○—△—○												
	白・八重、白・一重	○—○—△—○												

○:播種、△:定植、○:仮植、↓:さし芽、▼:根伏せ、■:低温処理、●●●:加温、□:収穫

図 京都をイメージする鉢物・花壇苗品目の作型



ナデシコ類  
(*D. pavonius*)



キキョウ



トルコギキョウ



キブネギク

写真 作型を開発した鉢物・花壇苗品目

( 問合せ先 : 0771-22-0429 )

